

白山ふるさと文学賞

第十二回 白山市ジュニア文芸賞 受賞作品

【島清部門】

中高校生 作文の部 優秀賞

「自分を変えるために。」

松任中学校二年

廣松^{ひろまつ}

紗羽^{さわ}

私は、小学六年生の頃から、学校の生徒、先生などの周りの人を信じて苦手になりました。「私はこの人にどう思われているだろう」「仲良くしてくれているけれど、相手は本当に自分のことを好いてくれているのだろうか」と。そういう風に悩むことが増えて、何度にも人に迷惑をかけ、自分で自分のことを苦しめていることに気づけませんでした。今、私はまだ、完全に克服することができたわけではありませんが、少しずつ、信じていることができるようになり、好きなことを楽しむ余裕もできてきました。そこで、私がこの小学六年生から中学二年生の夏までで学んだことを皆さんに伝えたいと思います。

私が信じていることが苦手になったのは、小学六年生の二学期、秋頃です。完全にクラスの中でグループが完成し、それぞれで楽しく学校生活を送る時期でした。私も、一応一つのグループに入っていて、それまではそこで楽しく生活していました。でも、少しずつ自分が孤立していることに気づきました。自分が孤立していると分かり、一人になった途端に、コソコソと話す様子や、小さく鼻で笑い話す声はつきりと自分の目と耳に入るようになり、自分からグループ活動を避けたり、人と距離を置くようになりました。その時の自分は、自分に自信がなく、誰かが自分を嫌うことへの恐怖を強く感じすぎたのではないかと思っています。

この出来事で私はまず、「苦痛から『逃げている』という考え方をしないように」ではなく、『逃げる』ことはダメなことではなく、楽しいことをするために切り替えること』と、マイナスな考え方をやめるのではなく、その言葉の受け取り方、考え方を変えました。よく、「目の前の出来事から逃げるな。」というような言葉を漫画やアニメで聞きますが、現実には逃げずに生きることなんて難しく、そう簡単にできることではない、むしろできるはずがないと私は思います。漫画やアニメなどの創作は、現実ではできないことができてしまう夢の世界なので、登場人物の言葉に背中を押されることは良いことです

が、自分を追い詰めてしまうようなことがないように注意することも大切だと思います。

次に、自分に自信を持つことが大切だということです。皆さんは、尾田栄一郎さんを知っていますか。私はこの方の「この世は思った通りになるのだそう。思った通りにはならないよと思っている人が、思った通りにならない場合、思った通りになっているので、やっぱりそれは、思った通りになっているのだそう。」という考え方が、すごく心に刺さりました。同じ言葉が何度も続いて、よくわからなくなりませんが、簡単に言うのと、できると思えばできるまで諦めずに続け、できたら思った通りになっているということ、できない、ありえないと思えば、一度やって出来ず、「ほらやっぱり無理じゃん。」と諦めて終わり、それも、思った通りになっているということです。結局は、何かを成し遂げるためには、自分を信じ、めげずに物事に取り組みむしかないということです。自分を信じてめげずに物事に取り組み何かを得たという事実が、自分の自信に繋がります、その自信がまた他の何かを得ることに繋がります、どんどん自分に自信がつくようになります。この連鎖は、この世の最大の優しさであり、生きることの最大のメリットだと私は考えます。

そして、この話で私が一番伝えたいことは、案外、そのグループから外れたからと言って自分の周りに人がいなくなるわけではないということ。今までの話の中で、一番単純で、普通なことを言っているかもしれないが、誰かと離れたからといって自分がこれかからずと一人で生きていくことはありえません。確かに、いつも一緒にいた人が離れていくことは一人になったような寂しい気分になり、焦りもあると思います。ですが、それは自分の人生のほんの少し、一パーセントにすぎないほど小さな一部を一度失っただけであって、そんなことで人生が一変するほど現実には難しいものではなく、そのグループの子以外でも、話しかければ笑顔で話してくれます。一

人でいたら話しかけてくれる子もいます。もしかしたらもう一度そのグループに入り、仲良くなるかもしれない。そう考えると、むしろ現実には、自分が思っているより何倍もずっと優しいです。

これからも、苦手を克服するためにたくさんのお話を続けていく必要があると思っています。また、今まで話したことは、克服したあとも継続し、今まで以上にもっと、自分らしく、気楽に、生きることを楽しんでいけたら自分にとって一番大きなものを得られると思います。「人生を誰よりも楽しみ謳歌する人間、周りに流されない芯のある私」を目標にこれからも努力し続けたいです。もし、私と同じ状況になっている人がいたら、まずは少し動いてみることをおすすめします。

